

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-22

部門名： 校内研修部門	エントリー名：京都市立朱雀第一小学校
活動名： <b>進化し続ける朱一校内研究 教職員の参画意識の向上を目指して</b>	
解決すべき課題：※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください  様々な教育課題に対応していくためには、教職員一人一人の力量の向上とともに学校の組織力を向上することによって、学校の教育力を高めていかなければならない。すべての教職員が、自律性と協働性を大切に凝集性を高めることで、真の同僚性が生まれ学校の教育力も高まっていく。そのためには組織の見直しにより教職員の意欲を引き出すとともに、毎日の授業を大切にして校内研究を変革していくことが必要だと考える。	
目標・方針：  教職員の参画意識を向上させ、本校でつきたい資質・能力育成のために、次の3点を方針とする。 ①学校教育目標具現化に向けて本校で育成したい資質・能力を全教職員で共有する。 ②教職員集団の「自律性」とそれを前提とした「協働性」を高めるための参加型の研修を実施する。 ③カリキュラム・マネジメントの視点を大切にした校内研究を推進する。	
活動内容：  ①本校でつきたい資質・能力育成のための具体的な取組を年度当初に共有する。(図1, 写真1) 各学期末にその時点での取組の成果と課題を省察する。(写真2) ②校務分掌を精選し、本校でつきたい資質・能力育成を「いのち輝きプロジェクト」として取り組む。(図1) 会議の回数の削減やもち方の工夫により、学年会の時間を増やす。校内研究の事後授業研究会を、PMI チャートを活用し、ジグソー法を取り入れて研修する。 ③校内研究を従来の教科研究から、資質・能力育成をめあてとする教科横断型研究にする。「対話的な学び」を重点として、全教職員の共通の指標は、「対話名人カード」とし、子どもたちの学期ごとの自己評価と、教職員の授業参観時にも指標を取り入れて授業研究を行う。(図2) ・視覚的で、参加型の資質・能力育成指導案にしていく。(図3) ・事後授業研究会では、学年で話し合う時間を取り入れ、関係単元配列表を見ながら、今後の研究の方向性を話し合えるようにする。また、関係単元配列表をより活用しやすいように改善する。(図4) ・思考ツールや知識構成型ジグソー法、ICTを活用し、学びを深める。	
活動の成果：  ①本校で育成したい資質・能力を全教職員で共有し、定期的に戻ることによって、常にそれを意識した取組にすることができ、どうすれば育成していけるかを自分事として考えることができた。 ②校務分掌を精選し、会議を減らしたことにより、学年で話し合う時間が大きく増え、本校で重点としている取組が明確になった。また、事後授業研究会で思考ツールや知識構成型ジグソー法を活用することにより、若年教員も積極的に発言し、対話が深まり、研究を推進していくことができた。 ③関係単元配列表(図5)を改善したことにより、年間の見通しをもって研究を進めるとともに、常に活用しながら研究していくことができた。校内研究を変革していくことにより、子どもの学力向上につながった。また学校評価に関わる児童アンケートでも、自己肯定感の高まりが見られた。(図5)	
アピールポイント(アイデアや工夫)：  ・会議の削減による学年会の充実・年間計画で、どのぐらい会議を削減したかを可視化できるようにしている。 ・学習指導案を「資質・能力育成指導案」として図等を取り入れ視覚化し研究の方向性を明確にしている。 ・思考ツールや知識構成型ジグソー法を話し合いを深める手段として活用している。 ・見直しをもった校内研究・・・関係単元配列表を改善して、校内研究に生かしている。	

図1 平成31年(令和元年)度学校教育目標  
**「夢をもち、いのち輝く朱一の子  
 ~レジリエンスの育成~」**  
**【育成したい資質・能力】**  
**「人間関係形成力」「課題解決力」「回復力」**

「対話的な学び」を通して学びを深める校内研究

「いのち輝きプロジェクト」  
 かがやきタイム(人権教育)  
 心と体の健康教育(心と体は一体)  
 たてわり活動の推進  
 積極的な生徒指導

「ほんまもん」との出会い

自己有用感に裏打ちされた自尊感情の向上

写真1 4月当初  
「資質・能力」の共有

写真2 1学期末  
夏季研修で、ふりかえり

図2 対話名人カード

項目	1学期	2学期	3学期
① 自分の考えを持っている。	4	3	2
② 相手の意見を聞いて聞いている。	4	3	2
③ 友だちの意見について話している。	4	3	2
④ うなずくなど相手の話をサポートしている。	4	3	2
⑤ 自分の考えを話している。	4	3	2
⑥ 質問している。	4	3	2
⑦ 学習前と比べてふりかえりをする。	4	3	2

どの力が課題となっているか、学年毎に子どもの実態把握！  
レーダーチャートで可視化

図3 資質・能力育成指導

図等で、指導案の可視化！

図4 平成30年度関係単元配列表

図5 令和元年度関係単元配列表

図5 「自分のよいところがわかっている」(児童アンケートより)

学年	平成30年度	令和元年度
1,2年	75%	80%
3~6年	65%	75%

自己肯定感の向上！(子どものアンケートより)